



情報科学部

第3回 自転車甲子園最優秀賞



12月3日(日)、松山市ANAクラウンプラザで開催された「第3回自転車甲子園」に参加しました。結果は、最優秀賞をいただくことができました。「自転車甲子園」は、高校生がサイクリングに関する正しい知識や技術を身に付けるとともに、地域の自然環境や文化への理解を深め、サイクリングを通じて、地域の魅力を発見・発信できる人材として活躍すること、また、地域課題に向き合う活動により、学生・学校が社会的に影響の高い活動を行っていることをお互いに認識しあい、県内外へ示していくことを目的として開催されています。

競技は、①道路交通法やマナーに関するクイズ ②ヘルメットの着用や、クロスバイクによるスラローム・スタンディングなどの実技 ③地域の活動や取組に関するスピーチ ④決勝4校による討論バトル の4部構成で実施されます。私たちは予選を1位で勝ち上がり、そのまま優勝しました。この中で、特に力を入れてきたのは、スピーチです。スピーチの審査は、地域の課題に対する取組や、今後の発展性が望める内容などによって点数が決まります。何度も話し合った結果、「安全の輪」を広めるため、交通安全に関する取組とサイクリング体験に関して発表することにしました。

四国中央市は、地理上、大型車が頻繁に通行する幹線道路があり、自転車にとって大変危険な地域であるにもかかわらず、自転車交通安全に対する意識がとても低い状況となっています。高校生が主体となって交通安全教室を開き、地域の中学校と協力しながら、地域の交通安全を守るリーダーになりたいと考えました。そして、安全教室で学んだ知識を生かし、実際にサイクリングを行うことによって、安全に対する意識をより一層高めることができると思ったのです。

サイクリングコースの設定については、安全に配慮しながら、道路交通法やマナーの大切さを体験できるものにするため、何度も試走を行いました。サイクリングの楽しさを味わえるイベントを目指して、地域の方々のご協力をいただき、紙のまちの特徴を生かした水引の記念グッズや、おいしいスイーツも提供しました。地域とつながることの大切さを、今回のイベントでは痛感しました。このイベントは無事に終了し、スピーチでも高い評価を受けました。そのスピーチの勢いそのまま討論バトルに臨み、最優秀賞に選ばれたのです。初出場で緊張しましたが、これまでの練習の成果を十分に発揮することができ、努力は裏切らないと実感しました。

この大会に参加するに当たって、多くの方々にご協力をいただきました。今回の優勝は、皆さんからのご支援のたまものだと、大変感謝しております。これからも、支えていただいた皆さんへ感謝する気持ちを忘れず、期待にこたえられるよう努力していきたいと思っております。来年度もすばらしい結果を報告できるように、これからしっかり準備していきます。本当にありがとうございました。

■ごあいさつ

この度、令和5年12月3日(日)松山市において開催された「第3回自転車甲子園」(県自転車新文化推進協会主催)において、本校情報科学部が初出場し、「最優秀賞」の栄誉に輝きました。これもひとえに、日頃からの生徒たちの研究と活動、顧問の熱心な指導の賜物と考えております。

これまでも情報科学部は、地域観光についての研究活動を行ってきましたが、今回新しい研究分野に挑戦し、サイクリングをとおして自転車文化を四国中央市に定着させ、地域を活性化させるための研究と活動が高く評価されたものと考えております。

今後も、地域と連携した活動をとおして、地域を活性化し、本校の魅力を発信していく所存ですので、同窓生の皆様方からの温かいご支援とご鞭撻をお願いし、ご報告とさせていただきます。



同窓会長
森 高康行



校長
二宮 敬則

富 貴 乗 車 座 席

(第3種郵便物認可)

自転車甲子園 土居が最優秀

松山9校 技と知識競う

自転車に関する知識や運転技術を競う高校生による「第3回自転車甲子園」(県自転車新文化推進協会主催)が3日、松山市内で開かれた。県内外から参加した計9校が自転車にまつわるクイズや実技などで熱戦を展開。初出場の県立土居高校(四国中央市)が最優秀賞に輝いた。
(春尾直哉)



実技競技のスタンディング2mに挑戦する生徒(いずれも松山市)

大会は、高校生に正しい自転車の知識や交通ルールを身に付けてもらい、サイクリング文化を根付かせようと2021年にスタート。今年は県外から初めて、長野県の白馬高校も参加した。

各校3人1組でクイズや実技、スピーチの3種目に取り組み、ポイントの合計で決勝の討論バトル(上位4校)進出を争った。

このうち、実技は大街道に特設ゾーンを設けて実施。幅20m、長さ30mの青い布から外れないように走る「一本橋」や1.8m間隔に置かれた三角コーンの間を走行する「8

の字スラローム」などに生徒たちが挑んだ。注目を集めたのは、土居高校の情報科学部・自転車部門に所属する川上二樹さん(2年)。足を着けずに2m四方にとどまる「スタンディング2m」で、各校の生徒が20秒台で終了するなか、1分13秒の好記録をマークし、通りかかった買い物客らから拍手を浴びていた。



最優秀賞に輝き、喜び合う土居高校の生徒たち

スピーチでは、各校が自転車の字スラロームなどに生徒たちが挑んだ。注目を集めたのは、土居高校の情報科学部・自転車部門に所属する川上二樹さん(2年)。足を着けずに2m四方にとどまる「スタンディング2m」で、各校の生徒が20秒台で終了するなか、1分13秒の好記録をマークし、通りかかった買い物客らから拍手を浴びていた。

討論バトルの結果、最優秀賞に選ばれた土居高校主将の川上さんは「しまなみ海道がある今治ほど自転車文化がない土居に、サイクリングを根付かせるきっかけになればうれしい」と笑顔を見せた。

その他の受賞校は以下の通り。▽優秀賞 白馬高校、松山北高校中島分校▽特別賞 弓削高校▽特別審査員賞 県立新居浜東高校



幅20m、長さ30mの「一本橋」に挑戦する生徒